

日本語教育部門活動報告 2 – 日本語学習支援サイト RAICHO – (2012年4月～2013年3月)

後藤寛樹

1 日本語学習支援サイト RAICHO の概要

「日本語学習支援サイト RAICHO」(以下、「RAICHO サイト」とする、<http://tisc.isc.u-toyama.ac.jp/>)は、富山大学に在籍する留学生の日本語学習を総合的に支援するための一つの手段として、留学生センター日本語教育部門が開設・運営しているサイトである。サイト開設のねらいは、富山大学で学ぶ留学生の学習を支援するという点にあり、ターゲットを富山大学の留学生に限定することで、サイトに掲載する情報を絞り込み、利用者が必要な情報に容易にアクセスできるようにするという点に重点をおいている(ただし、サイト自体は学内外を問わず利用できる)。インターネットはわれわれの生活に深く浸透し、インターネットを介してありとあらゆる情報にアクセスできるようになったが、インターネット上には膨大な量の情報があり、求める情報を効率よく探し出すためには、この膨大な量の情報の中から必要とするものを取捨選択する能力が必要とされる。しかし、必要な情報の取捨選択はそれほど容易ではなく、留学生が日本語学習のリソースをインターネット上に求めたとしても、自己の学習に有益な情報をうまく選ぶことができなければ、リソースを学習に効率的に生かすことはできない。そこで、本学で学ぶ留学生に必要な情報を一括して提供する Web サイトがあれば、留学生にとっての利便性が高くなるだろうというねらいのもとで開設・運営されているのが、RAICHO サイトである。本稿では、RAICHO サイトの 2012 年度の整備状況について報告し、今後の展望を述べる。

2 2012 年度 RAICHO サイト整備状況および利用状況

2012 年度には、「日本語自己学習」で提供していた助詞、動詞の活用問題構成を再検討し、初級クラスでメインテキストとして用いている『みんなの日本語』(スリーエーネットワーク)に準拠した形で、テキストの進度に合わせて語彙や活用・助詞などの基本文法の確認練習ができるような問題群を作成した。また、近年、スマートフォンが普及し、携帯電話を所持している留学生のほとんどがスマートフォンを利用するようになってきている。そして、スマートフォンで「日本語自己学習」にアクセスしたいという声も聞かれるようになってきた。これまでの「日本語自己学習」コンテンツは、コンピュータからのアクセスを前提としてデザインされていたため、スマートフォンでは閲覧しにくい状況にあった。そこで、新たにスマートフォン用のページデザインを作成し、スマートフォンからでも気軽に利用できるように整備した。

RAICHO サイトの利用状況については、引き続き学内外から多数の利用の声が寄せられている。特に、「日本語自己学習」コンテンツはユーザ登録をすることによって、利用者が自身の解答履歴を参照できるようになっているが、2012年4月から2013年3月までの1年間に、新たに488人がユーザ登録をしてこのコンテンツを利用している。

3 今後の展望

RAICHO サイトは開設から10年が経過した。昨年度の報告で、スマートフォンの普及に伴う RAICHO サイトの課題について述べたが、今年度はスマートフォンからの閲覧も不自由なく行えるよう、「日本語自己学習」のコンテンツ表示デザインにスマートフォン専用のデザインを追加した。しかし、コンテンツすべてがスマートフォンからでも利用できるようになったわけではなく、ひらがな・カ

タカナの学習コンテンツなどは Flash 動画を使用しているため、これに対応していないスマートフォンでは表示ができない。サイトで提供するコンテンツを充実させるとともに、こうした点の改善も進めていかなければならない。また、コンテンツの中身については、2 節で述べた問題群の作成により、かなり充実した練習問題が提供されるようになった。しかし一方で、漢字のコンテンツについては、授業で使用するテキストが以前と異なっているため、「日本語自己学習」コンテンツで提供されているのは、クラスで使用している漢字のテキストに準拠した問題ではない。教科書が変わるたびに問題を開発していくのは作業としても大変ではあるが、できるだけセンターの日本語プログラムで使用している教科書に準拠した問題を開発していく必要がある。

また、「情報提供」のコンテンツの充実化も課題である。昨年度の報告でも述べたが、スマートフォンやタブレット PC の普及により、これまで以上に様々なツールやリソースを日本語学習に利用できるようになっている。しかし、こうしたツールやリソースの存在を知らなければ、あるいは知っていても活用の幅に気づいていなければ、効果的な利用にはつながっていかない。留学生の日本語学習を間接的に支援するために、各種ツールやリソースの活用のヒントや活用例を掲載するなどして、「情報提供」のページの充実化を進めていく必要があるだろう。

富山大学は 3 つのキャンパスからなる総合大学であるが、留学生数の違いや留学生の専門分野の違い、キャンパスごとの事情などもあり、3 つのキャンパスで同内容の日本語支援を行っていくのは難しいという現状がある。できる限り、同内容の日本語支援を行っていくのが望ましい形ではあるが、一方で、RAICHO サイトを利用することで、各キャンパスで行われる授業では補いきれない部分についての支援を行うことも可能である。ただし、このサイトの管理・運営を担っているのは五福キャンパスにいる留学生センター専任教員であり、他のキャンパスの実情に即したコンテンツの開発は行っていない。特に杉谷キャンパスには日本語・日本事情担当の専任教員もいるので、うまく協力・連携することができれば、このサイトを利用した留学生の日本語学習支援が強化されるのではないかと。

今後も、インターネットを利用したサイトの機能や特長を生かして、留学生の日本語学習支援をさらに進めていけるよう、RAICHO サイトの充実をはかっていきたい。